

オリジナルの爽やかサイダー発売



㈱まちづくりふねひきは、オリジナルの地サイダー「みちのく夢二浪漫サイダー」を4月19日から発売開始しました。初回生産は1300本。ふねひきアンテナショップ、まちづくりふねひきのネットショップ、あぶくま洞など市内観光施設で販売しています。

モンド・セレクションで大金賞を連続受賞している「あぶくまの天然水」を使うことで、まろやかな口当たりで、すっきり爽やかなサイダーに仕上がっています。340mlの瓶入りで1本250円。ラベルには船引町にゆかりのある竹久夢二の絵を採用しました。市の補助事業を活用し、炭酸飲料のラムネやシャンメリーを造っている仙台市のトレボン食品㈱に製造を委託しました。

販売に先駆けて安藤社長、渡辺専務、社員の中村さん、伊藤さんが市役所を訪れ、富塚市長にお披露目しました。安藤社長が「独自ブランドとして、子どもからお年寄りまで広く親しまれる地サイダーを開発しました。原発事故後も安全性が証明されている地元産の銘水を利用することで、風評被害を払しょくし、全国に向けてPRしたい。今後は製造本数を増やし、いろんな味のサイダーを造るほか、味のない炭酸水を作り、ハイボールや焼酎に利用していただきたい」と話しました。富塚市長は試飲して「大変懐かしい味がして、おいしい。市の特産品として大いに期待します。全国へ元気な田村市をPRしていただきたい」と答えました。売り上げの一部は、復興事業などへの支援に寄附される予定です。



あぶくま洞に人の波



あぶくま洞春まつりが4月29日から5月5日まで開かれ、県内外からの大勢の家族連れなどでにぎわいました。施設内には大小のこいのぼりが飾られ、シイタケ焼きなど地元産品を扱う出店には行列が見られました。

絵付けや日替わりの工作体験コーナーも設けられ、人気を集めました。期間中は、プラスアンサンプル輝響の屋外コンサートなど多彩なイベントが催され、まつりを盛り上げました。

無火災を呼びかけ巡回



山火事防止パレードが4月19日、市総合体育館駐車場で行われました。県の山火事予防運動の一環として例年実施しており、市、市消防団、消防署、警察署、田村森林組合、ふくしま中央森林組合、福島森林管理署が参加しました。

出発式は強風のため体育館会議室で行われ、終了後、参加者35人が車両20台に分乗して、滝根町・大越町方面、常葉町・都路町方面、船引町方面に分かれ、無火災を呼びかけました。

一層精かな顔つきに!



魔よけの神様として江戸時代からまつられている「お人形様」が4月14日と28日、衣替えしました。

各保存会の会員が高さ約4mのお人形様の化粧を直し、髪の毛の杉の葉やわらで編んだ衣などを取り替えて、今年1年の地域の安全や家族の無病息災を願いました。

朴橋お人形様保存会(荒井政男会長)は14日、屋形お人形様保存会(吉田渉会長)と堀越お人形様保存会(桑原喜美雄会長)は28日に衣替えを行いました。

この製作の風習は現在、県の無形民俗文化財に指定されています。

元気に泳げ!「こいのぼり掲揚式」



快晴に恵まれた4月25日、船引保育所の園庭でこいのぼり掲揚式が行われました。4歳児27人と5歳児23人が参加しました。式では、富塚市長が「皆さんはこれから一日一日大きくなっていきます。こいのぼりのように元気に立派になってください」とあいさつ。4歳児代表の橋本緋真ちゃんと5歳児代表の大室岳寛くんに記念品のお菓子がプレゼントされました。こいのぼりの掲揚では、保育所の園児全員と子育て支援センターの幼児が見守る中、富塚市長と4歳児、5歳児が童謡「こいのぼり」を合唱しながら、元気にロープを引っ張り上げました。大小62匹のこいのぼりが大空を優雅に泳ぐと、子どもたちからは喜びの歓声と拍手が湧き上がりました。

桜も笑顔も満開



常葉町小檜山地区の老人会は4月26日、趣向を凝らした花見会を行いました。会場となった地区公民館の和室には、会員の山で不用となった本物の桜の木が切り出され、テーブル中央に飾られました。

参加者は満開の桜を見ながらカラオケ大会やビンゴゲームなどを行い、美味しい料理と飲み物、楽しい語らいで笑顔も満開の1日になりました。